

# 調査員だより

通巻：第4号

平成18年12月

農林水産省大臣官房  
統計部

## 目次

- 1 旬のたべもの：いちご
- 2 地域で頑張る統計調査員
- 3 こんなことが分かる：農業構造動態調査
- 4 今後実施される主な統計調査（12月～2月）



(シクラメン)

## 旬のたべもの：いちご



●いちごはバラ科の多年草で、りんご、なし、さくらんぼなどもその仲間です。

●石器時代の昔から野生種が食べられていましたが、現在、日本で作られているいちごの原産地はオランダで、江戸末期に長崎に持ち込まれ、当時はオランダいちごと呼ばれていました。

●いちごは、独特の良い香りがあり、ビタミンCが多く含まれています。30年前は春から初夏

の味覚でしたが、品種改良やハウス栽培の普及により11月頃から初夏まで味わうことができます。

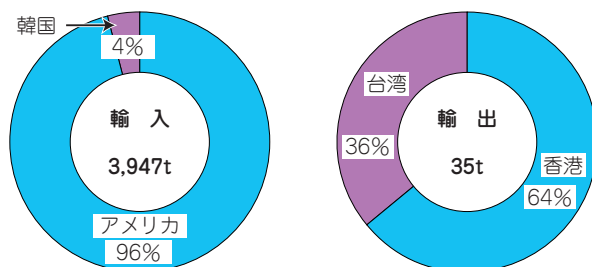
●平成17年産の収穫量は約20万t(産出額 269億円)で、栃木県が全国の16%を占めて1位です。

また、品種では、栃木県の「とちおとめ」、福岡県の「あまおう」、熊本県の「とよのか」などのブランドが有名です。

●なお、国内生産が少ない7～9月頃を中心にアメリカなどから約4,000tが輸入されていますが、香港、台湾に年間35tを輸出しています。

順位	都道府県	収穫量 (t)	割合 (%)
	全国計	196,200	100
1位	栃木	30,800	16
2位	福岡	18,600	9
3位	熊本	13,200	7
4位	静岡	12,800	7
5位	愛知	12,100	6

資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」



資料：財務省「貿易統計」

## 地域で頑張る統計調査員

### 調査世帯から統計調査員への転身



渡部 明子 さん

中国四国農政局

津山統計・情報センター

#### Q 統計調査員を引き受けられたのは？

2年前に消費者のグループを通して、食品ロス統計調査の協力者（調査世帯）を引き受けました。

その後、統計調査員を頼まれて軽い気持ちで引き受けました。

#### Q これまでにどんな調査を担当されましたか？

今回の食品ロス統計調査が、統計調査員となって初めての担当調査です。

#### Q 今回の調査はうまくできましたか？

作業の流れや調査票の記入方法などは、協力者の時の経験が生かして特に戸惑いはありませんでした。

わからないことは気軽にセンターの職員の方に相談させていただきました。

#### Q 調査で気をつけている点、工夫している点がありますか？

聞き取ったことなどを忘れないように、調査票を回収したらその日のうちにコードを記入するなど、集中的に整理するようにしました。

また、普段の家事や協力者の経験も活かしながら、調味料の記入漏れがないかなども気をつけて見るようにしています。

#### Q 消費者の立場から食品ロスについて感じていることはありますか？

以前と比べて、家庭での食べ残しや農家での規格外品の廃棄などが多くなったような気がします。

私たち消費者も食べ物を無駄にしないよう気をつけなければならないと思います。

#### センターからの一言

渡部さんには食品ロス統計調査の調査世帯として以前にご協力いただいたことが契機となり、調査員をお願いしました。

調査内容の理解も早く、調査結果も正確で今後の更なる活躍に期待しています。

## こんなことが分かる：農業構造動態調査

### — 189万戸 —

この189万戸という数字は平成18年の日本全国の「販売農家」の数です。

販売農家とは、経営している耕地面積が30a（3,000m<sup>2</sup>）以上あるか、もしくは年間の農産物の売上高が50万円以上ある世帯のことです。

平成8年は261万戸ありましたが、10年

間で28%も減少しました。

販売農家の中で、ふだん主に農業に従事している人は全国で210万人います。しかし、60歳以上の方が145万人と全体の69%を占めています。

右のグラフからは最近70歳以上の人が特に増えていることがわかります。

# 地域で頑張る統計調査員

## 北の大地で奮闘するベテラン統計調査員



清野 隆 さん

北海道農政事務所  
遠軽統計・情報センター  
紋別庁舎

**Q 統計調査員を引き受けられたのは？**

当時の紋別出張所に知人がいたのがきっかけで、1991年の製材統計調査を引き受けました。

**Q これまでにどんな調査を担当されましたか？**

木材統計調査、畜産統計調査、漁業センサス、水産加工統計調査、食品ロス統計調査、牛乳乳製品統計調査などです。

**Q 調査を担当して良かったこと、苦勞したことは何ですか？**

良かったことは、第1次産業で働く人の実態を少しは理解できたことです。また、農林水産物が単なる商品ではなく、生産者の努力の成果として実感できるようになったことです。

生産者の日常の苦勞を身をもって感じるようになりました。

苦勞としては、調査をお願いする際、調査目

的などすんなり理解していただけないことがあり、自分の説明の仕方が悪いのかと悩むことがあります。

**Q 調査で気をつけている点、工夫している点がありますか？**

農家や漁業関係者の話を理解できるようになりたいと思い、新聞や雑誌などで農林水産業関連の記事を注意して読むようになりました。

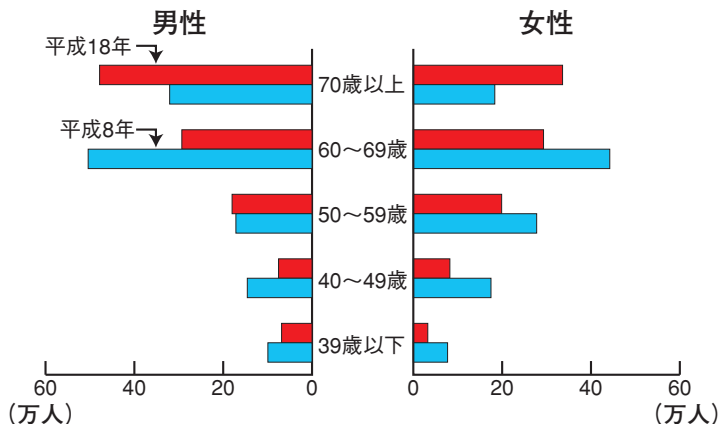
**Q 農林水産業について現場で感じられることは何ですか？**

長く調査員をしていると、離農する農家が増えていることを寂しく思います。このままでは農家は皆いなくなるのではないかと思うことがあります。意欲のある農家を十分支援する農業政策が大事だと感じています。

**センターからの一言**

清野さんには当センターの調査員調査の大部分を担っていただいております。調査結果も正確で、今ではセンターには欠かせない存在です。

### 主に農業に従事している人



この農業構造動態調査は農業の実態である農家数や農家人口、農業従事者を把握するとともに、将来の農業の担い手を予測するためのデータとして活用されています。

来年2月も調査を予定しておりますので、みなさんのご協力をよろしくお願いいたします。

## 今後実施される主な統計調査（12月～2月）

調査名	調査時期	調査名	調査時期
農業物価統計調査	毎月(19年1月～)	牛乳乳製品統計調査 (基礎調査)	平成19年1～2月
農業構造動態調査	平成19年2月	生鮮食料品価格・販売動向調査	平成18年12月
木材統計調査	平成18年12月	内水面漁業生産統計調査	平成19年1～3月
畜産統計調査	平成19年2月	産地水産物流通調査	毎月(19年1月～) 年1回(19年1～3月)
食品ロス統計調査 (世帯調査)	平成18年12月	水産加工統計調査	平成19年1～2月
		食品流通構造調査 (青果物調査)	平成18年11月 ～平成19年1月



### お知らせ

平成18年12月～19年2月に統計調査員に調査を行って頂く統計調査は、上記のとおりです。

なお、「農業物価統計調査」が平成19年1月から新たに統計調査員によって調査を行って頂くことになりました。

統計調査の内容、調査方法などについて詳しくお知りになりたい場合は、下記の最寄りの統計・情報センターまでご連絡下さい。

寒い季節となりました。  
風邪などにご注意ください。



### 最寄りの統計・情報センター

担当者

TEL

### ◆ 編集・発行 ◆

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省 大臣官房 統計部 統計企画課 調査改善班

電話 03-3502-8111 (内線2661～2663)、FAX 03-3501-9644

